

第3回 歴史・文化、自然再生WGの開催結果	
日時	平成24年8月22日(水) 14:00~16:00
場所	亀岡市役所 602会議室
出席者	<p>京都大学大学院 教授 岩田 明久 グループ長 亀岡文化資料館 館長 黒川 孝宏 副グループ長 NPO法人亀岡 人と自然のネットワーク 仲田 丞治 亀岡市文化資料館友の会 中川 秀夫 ふるさと亀岡ガイドの会 中川 禎人 (順不同、敬称略)</p> <p>亀岡市環境政策課 中西係長 // 土木管理課 橋本課長 // 社会教育課 松山副課長 // 桂川・道路整備課 並河課長、柴田参事、関口係長、竹村主査</p> <p>京都府南丹広域振興局 企画総務部 企画振興室 箕浦副室長 (事務局)</p> <p>京都府南丹土木事務所河川砂防室 星野室長、井尻副室長、中主査、青木副主査</p>
内容 (次第)	<p>1)開 会 2)前回の振り返り 3)議 事 ○下内膳堤の復元について ○新たな生息環境の創出について ○今後の進め方について 4)閉 会</p>
結 果	<p>○下内膳堤の復元にあたっては、事務局(案)のとおりで了承され、今後は詳細設計を進めていくこととなった。ただし、施工に当たっては段階的に進めていき、河川内の状況を見ながら進めていくことで了承された。また、亀の甲については、再度、文献等を調査することとする。</p> <p>○生物の新たな生息環境の創出については、他のWGで活用されていない保津川下流左岸の高水敷において、アユモドキの新たな産卵場所の創出について検討を行う。</p> <p>○キーワードの候補として「歴史文化」「自然環境」「景観」「アユモドキ」などがあがった。</p> <p>○ハード整備のアウトラインがほぼ出揃ってきたので、今後は、ソフト面(歴史史跡マップ、保津川百景との連携、(仮)保津川探検等)についても検討していくこととなった。</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下内膳堤について、当時の河川と違っているので、現在の状況を踏まえた復元がよい。 ・下内膳堤の模型を作ってはどうか。 ・復元に当たっては、保津川下りの船頭さんにも事前に意見を聴いた方がよい。 ・亀の甲についても、古い船頭さんに聞いてみてはどうか。 ・亀の甲について機能を求めるのではなく、モニュメント的なものでも良いのではないか。 ・アユモドキの産卵は、水流があるところではなく、池のような所の方が良い。高水敷きに高さが違う皿状の池ができないか。ただし、一般の人が立ち入れないような措置が必要。 ・谷水を利用するなら、水温、植生や谷の深さなども調査が必要。 ・キーワードについては、小学生にもわかるように、やわらかい方がよいのではないか。 ・アユモドキは一つのシンボルである。 ・保津川の歴史文化を伝えるという観点から、例えば護岸の変遷も歴史文化であり、これらを参考帳のようなものにリストアップし、遊船の船頭さんに語ってもらったらどうか。

